



京都府立医科大学
NEWSLETTER

男女共同参画推進センター

LETTER

2018.3
vol.11

「キャリア支援コンソーシアム“えん”」キックオフ講演会・パネルディスカッション

平成30年1月20日（土） 午後4時～6時30分
京都府立医科大学 第一講義室（基礎医学学舎 1階）

テーマ：医療現場における働き方改革

プログラム：

1. 総会 午後4時-4時30分
オープニング挨拶・司会：竹中学長
2. 講演会 午後4時30分-5時30分
「女性医師支援と医療職の働き方改革」
座長：加藤 則人（皮膚科学 教授）
講師：松永 佳世子
（藤田保健衛生大学医学部 アレルギー疾患対策医療学講座 教授）
3. パネルディスカッション 午後5時30分-6時30分
司会：矢部男女共同参画推進センター長
「本学医療職の働き方の現状と問題点について」（竹中学長）
パネリスト
池田 栄人（京都第一赤十字病院 病院長）
高山 浩一（呼吸器内科学 教授）
濱口千鶴子（女性センター 総括看護師長）
藤原 敦子（泌尿器外科学 学内講師）
中務 克彦（内分泌・乳腺外科学 助教）
追加発言（松永講演会講師）



「キャリア支援コンソーシアム“えん”」(詳細は4ページをご覧ください)のキックオフ講演会を「医療現場における働き方改革」をテーマに開催し、医療従事者を中心に学内外から約50名が参加しました。

講演会『女性医師支援と医療職の働き方改革』

松永佳世子藤田保健衛生大学医学部アレルギー疾患対策医療学講座教授に「女性医師支援と医療職の働き方改革」と題して、ご講演いただきました。



・ 創立50周年 藤田保健衛生大学の紹介

藤田保健衛生大学は愛知県の名古屋市の東南に位置し、1964年に創設され、来年10月に藤田医科大学になります。THE世界大学ランキング2018で国内私立大学第1位、全体で国内ランキング11位になりました。大学病院は一つの施設としては日本最多の1435床です。大学の女性医師支援として2005年に医学部の女性医師・研究者の会を立ち上げ、院内保育所、病児保育の設置、時短勤務、シャワーや宿泊ができて電子カルテにもアクセスできる女性医師サロン「ジョイフルサロン」の設置、医学部学生へのキャリア継続の講義を行っております。

・ アレルギー疾患対策医療学の紹介

現在在籍している講座はヘアカラーを作っているホーユー株式会社の寄附講座です。3人の専任のスタッフ以外に、医師、臨床検査技師、弁理士や研究者たちと一緒に社会貢献できることをめざして臨床と人をつなぐ役割を心がけています。講座開設から2年弱でプロテオミクスを用いた抗原解析の特許申請を国内6件、海外2件行いました。

・女性医師支援・海外の事情から学ぶ

日本で女性医師が増えています。しかし、出産・育児を機会にキャリアを続けていくことは難しいと相変わらず言っています。また、女性医師の管理職は日本では極めて少ないのです。日本に暮らしているとこれが普通のことと感じるのですが、実はアジアの国々では違っています。例えばタイやインドではメイドや運転手などがおり、中国では2組の祖父母が家事育児を手伝っている、またフィリピンでは皮膚科医の95%が女性医師で施設長も女性医師というのが衝撃的でした。これらアジア諸国の女性医師と出会ったことで、日本にしていると今の状況が当たり前と思うけれども、世界は違う、もっとできることがあると勇気が湧いてきました。今すぐできるのは自分の「意識改革」です。

女性医師の割合は先進国では日本はほぼ最低で、韓国と日本は非常に女性が働きにくい環境にあります。女性が悩んでいることは家事と育児の両立、自分の時間・勉強時間が少ない、など色々ありますが、大事なことはパートナーの理解、誰と結婚してその男性がどう言うかということなのです。女性医師の特徴として、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という性別役割分担意識があり、男性より家事育児に費やす時間が長く、将来像を描きにくく、モチベーションが下がると仕事をやめたり、パート勤務になりやすい。また、診療以外の委員会や会議などの参画の機会が少ないので世の中が見えていない、つまり日本ではまだまだ女性の能力が十分生かされていません。

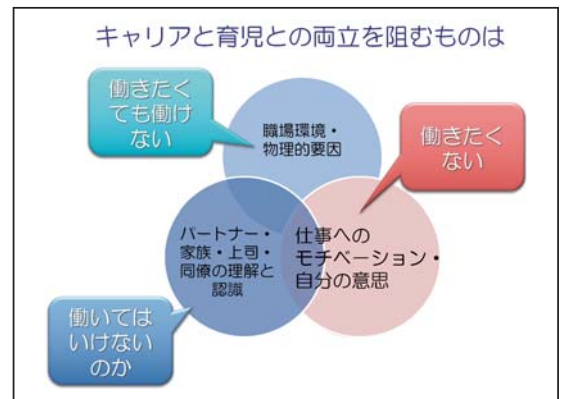
・医療職の働き方改革

女性医師の多くは男性医師と結婚しているので、女性医師支援は男性医師の働き方を改革することと直結しています。医師の長時間勤務とその原因ですが、緊急対応、手術や外来などの診療、勉強会への参加などの自己研鑽、そして大学病院では診療のほかに教育と研究という業務があり、時間で区切れないようになっています。応召業務についても個人ではなく組織として対応をどう整理するかといった観点が大切だと思います。医師がやらなくていいこと、他の人がや

れることを移管するタスク・シフティングや一緒にやれることは業務の共有化をする(タスク・シェアリング)を推進することです。

女性医師が増えても働けない時間が多いと医師が減ります。女性医師が続けられるように支援する、また勤務環境改善をすることによって働きやすくなることが大切です。女性医師の就業維持のために、医療体制を主治医制からチーム医療に見直していくべきだと思えます。

プロフェSSIONALとして活躍し続けるための要件として、周囲の支えで今のキャリアがある、社会で役立ちはじめにキャリアは意味を持つ、キャリア形成は長期ビジョンで、PassiveではなくActiveに考える、サポートが必要なら声を出す、個性は性を超える、1人ひとりが新しいキャリアのロールモデルになる、という7点を挙げたいと思います。



働き方改革への提言

- ・ 医師の健康管理措置の充実
 - ・ タスク・シフティング（業務の移管）
 - ・ タスク・シェアリング（業務の共同化）
 - ・ 女性医師の両立支援
 - ・ ICTの活用
 - ・ 医療勤務環境改善支援センター
 - ・ 第6回医師の働き方改革に関する検討会 平成30年1月15日
- これらは、すべて、重要です。

・女性医師の歩いてきた道 私の場合

私は小豆島で生まれ、高校生の時にAFS留学生として1年間米国で過ごし、60カ国ぐらいの留学生と知り合い、多大な影響を受けました。ホームシックで落ち込んでいた時に留学先のホストファミリーの父から言われた「知性とは与えられた環境のなかで最大限自分を活かす能力のことである」という言葉が座右の銘になりました。

名古屋大学医学部に入学し、児童精神医学に進むつもりでしたが、研修先で恩師早川律子先生と出会い、皮膚科医になることを決意し、女性だからできる分野を選びました。子どもができて大変な時もありましたが、「自分だから、女性だから、今だからできることがある」と自分を励まして歩んできました。

1991年に上田教授に誘われて、藤田保健衛生大学皮膚科講師として赴任、2000年に教授に就任しました。

私がここまで仕事を続けることができたのは、両親に「人の役に立つ人でいてほしい」と育てられ、仕事がおもしろかった、また周りの人がサポートしてくれたから、そして、人一倍仕事をする自分であり続けたからだだと思います。

すべての人にとって大事なものは自分の健康で、これは医師も同じです。もうひとつ大事なものは、医師がやらなくてはいけないこと、つまり最終診断と治療の最終選択、そしてリスクを伴う治療の実践と管理に集中して、医師でなくてもできることは他の職種に頼めばよいと思います。

女性医師支援への提言

- ・ 意識改革：男女平等 個性は性を超える
男女ともに生涯継続して仕事を持つ
責任あるポストも男女平等に勤めること
子育て・家事参加も平等に
- ・ 出産・育児・家事支援
「育児・家事ケアマネ・ヘルパー制度」必要
1) 保育施設
2) 家事・育児を手伝ってくれるシステム/情報管理（介護のケアマネがモデル）
- ・ 主治医制からチーム医療へ
患者・国民全体の意識改革と保健教育が必要

パネルディスカッション『医療職の働き方改革』については、ニューズレター次号でお伝えいたします。

「CC “えん” キックオフ講演会」アンケートより

- 松永先生のお話しは、大変興味深くまとまった講演で、女性医師の働き方の参考になった。
- 「考え方の改革」が大事であること、「今だからできること」「自分だからできること」「女性だからできること」を自分自身に問いかけながら過ごしていきたいと感じた。
- “男女の区別なく”自分自身も頑張っていく、後輩を指導するという姿勢が将来につながるのかなと感じた。
- モチベーションを失わずに働き続けることに関して、様々なサポートがあるのだと感じた。

病児保育室「こがも」



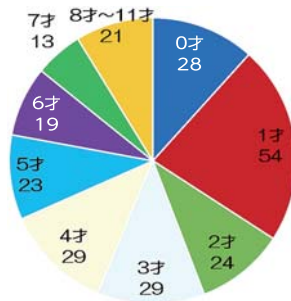
平成30年度の病児保育室事前年間登録（継続）を開始いたしました。
また、利用説明会を4月3日（火）16時から第5会議室（管理棟 5階）で開催いたします。

***問い合わせ先：病児保育室「こがも」**

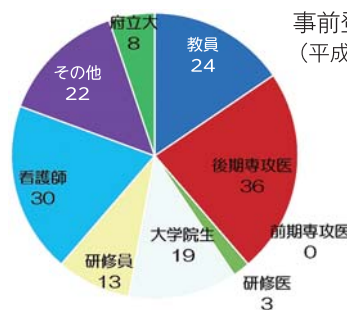
Eメール kodomo@koto.kpu-m.ac.jp TEL/FAX 075-251-5272

URL <http://www.kpu-m.ac.jp/j/miyakomodel/carerroom/riyou.html>

事前登録時年齢別内訳
(平成28年度 計240人)



事前登録者の職位内訳
(平成28年度 計155人)



※ NewsLetter vol.10で、平成28年度の延べ利用児数を653人としておりましたが、正しくは648人でした。お詫びして訂正いたします。

学内保育所「くすのき」

平成30年度通常保育の一斉申込は3月6日に締め切りました。
年度途中の入所や一時保育については、以下にお問い合わせください。

***問い合わせ先：京都府立医科大学 研究支援課**

TEL：075-251-5208 E-mail：kikaku01@koto.kpu-m.ac.jp



フューチャー・ステップ研究員、研究支援員制度利用者 研究成果発表会

2018年2月24日（土）10時～11時45分 京都府立医科大学 基礎医学学舎3階 第3会議室

第1部：研究成果発表

- ① 糖尿病合併症進行予防を目的とした糖尿病患者における家庭血圧コホート研究
② 治療抵抗性高血圧・循環器疾患における睡眠血圧と呼吸障害の頻度と予後に関する研究（SPREAD研究）
牛込 恵美（糖尿病治療学講座 講師）
- DM合併症進行予防を目的としたDMコホート研究
間嶋 紗織（内分泌・代謝内科学 特定病院助教）
- ① 肺がん治療に伴う高齢者の全身機能低下を予測する因子の探索
② Stevens-Johnson症候群呼吸器合併症の調査研究
金子 美子（呼吸器内科学 助教）
- 中枢神経免疫疾患における免疫応答の解析
藤井 ちひろ（神経内科学 フューチャー・ステップ研究員）
- メバロン酸経路はMEK阻害剤のアポトーシス耐性因子である
飯塚（大橋）まひろ（内分泌・乳腺外科学 フューチャー・ステップ研究員）
- アトピー性皮膚炎におけるTLR3の役割について
安池 理紗（皮膚科学 フューチャー・ステップ研究員）



第2部：意見交換

「キャリア支援コンソーシアム “えん”」メンバー募集



- 男女共同参画推進センターでは、今年度4月に広報・啓発事業の企画・運営にご協力いただく「キャリア支援コンソーシアム“えん”(CCえん)」を立ち上げ、メンバーを学内外から広く募集しています。

メンバーになると

1. キャリア支援に関する最新の情報が得られます
2. 各種相談の窓口としてご利用いただけます
3. 講演会等への講師を紹介・派遣します

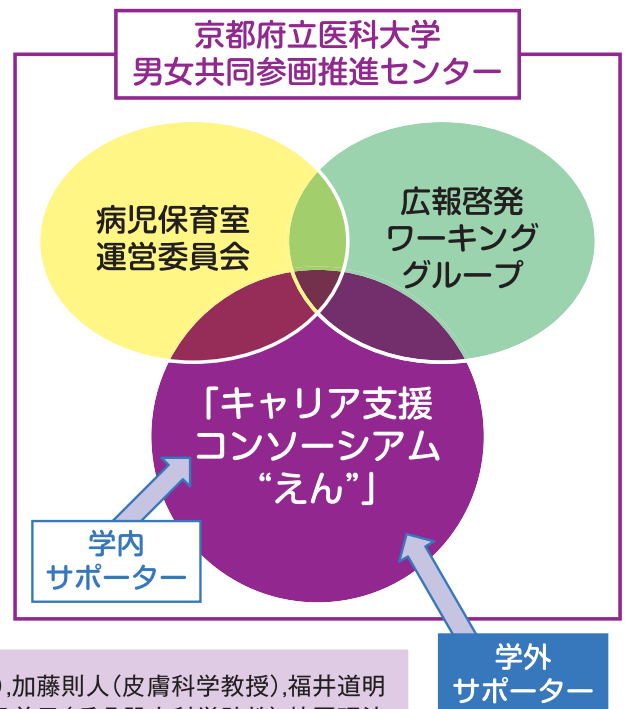
「CCえん」世話人(H29.4.1現在)

<学外>

竹村正子(竹村内科院長),武曾恵理(北野病院腎臓内科嘱託医、客員研究員),糸井恵(明治国際医療大学整形外科教授),田村秀子(田村秀子婦人科医院理事長),田邊智子(御池クリニックレディスドック長),平原直樹(京都第二赤十字病院泌尿器科副部長),佐藤礼子(厚生労働省大臣官房厚生科学課課長補佐)(卒業年次順)

<学内>

田口哲也(内分泌・乳腺外科学教授),高山浩一(呼吸器内科学教授),加藤則人(皮膚科学教授),福井道明(内分泌・代謝内科学教授),藤原敦子(泌尿器外科学学内講師),金子美子(呼吸器内科学助教),峠岡理沙(皮膚科学講師),牛込恵美(糖尿病治療学講座講師)(卒業年次順)



寄附のお願い

平成26年6月に本学男女共同参画推進センター寄附金の募集を開始し、皆さまにご協力をお願いいたしましたところ、これまで(平成29年12月末現在)個人65名、4医学教室、および33法人から5,290,000円のご寄附をいただきました。誠にありがとうございました。

皆さまからいただいた寄附金で、病児保育室見守りシステムの設置、講演会・ニュースレター発行等の広報啓発事業を実施させていただいております。

男女共同参画推進センターでは、今後とも長期展望を見据えた事業計画のもと、性別にかかわらず医師および研究者を支援していきたいと考えています。引き続き、皆さまのご支援・ご協力をお願い申し上げます。

寄附のお申込み、詳細については、下記HPをご覧ください。

<http://www.kpu-m.ac.jp/j/miyakomodel/activity/donation.html>



寄附金に対する免税措置について

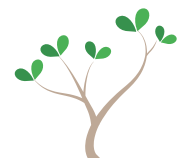
この寄附金は、所得税法、法人税法による税制上の優遇措置を受けることができます。

法人の場合

法人税法により、全額を損金扱いとすることが可能です。

個人の場合

所得税法により、総所得金額から寄附金の額を控除することができ、税金の対象となる額が軽減できます。個人住民税(京都府、京都市にお住まいの方)についても控除の対象となっております。



お知らせ

- 「女性研究者等支援相談窓口」を開設しています。ぜひ、ご活用ください。
- 休養・授乳・搾乳等のための女子休養室がございますので、ご利用ください。詳しくはHPをご覧ください。



男女共同参画推進センター

〒602-8566 京都市上京区河原町通広小路ル梶井町465
電話(FAX) : 075-251-5165
Eメール : miyako@koto.kpu-m.ac.jp
URL : <http://www.kpu-m.ac.jp/j/miyakomodel>